

ICTニュース～つつが虫病～

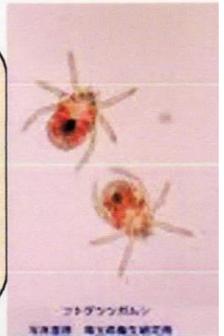
暖かくなってきて、山に行ったりと人の動きに合わせて、虫も活発に活動の時期です。

青森市内でも何件かツツガムシの感染症報告がされています。

予防が重要ですが、「早期発見」には知識が必要です。是非共有しましょう。

ツツガムシとは？

ダニの一種で、山林、河川敷などの草地、耕作地などの地中に広く分布しています。幼虫（体長約0.3ミリ）は一世代に一度、地中から出て、草の先端などで待機し、野ネズミなどの温血動物が通ったときに体表に吸着し、体液を十分に吸った後（2～3日）、体表より離れ、再び地中に入り、若虫へと成長します。



感染経路は？

病原体オリエンチアツツガムシの自然界における宿主はツツガムシで、ツツガムシが卵から若虫へと成長するサイクルの中にヒトが入ると、偶然にツツガムシの幼虫に刺咬され、その際に刺咬口からオリエンチアに感染し、つつが虫病を発症することになります。

なお、ヒトからヒト、ネズミからヒトへの直接の感染はありません。

症状

5～14日の潜伏期。39℃以上の高熱を伴って発症し、皮膚には特徴的なダニの刺し口がみられ、その後数日で体幹部を中心に発疹がみられるようになります。

発熱、刺し口、発疹は3つの主要徴候。

その他、全身倦怠感、食欲不振とともに頭痛、悪寒などを伴います。

初期病巣は、ツツガムシの刺口部で、腋の下や陰部などの柔軟部に多く見られ、その有無は診断上重要です。まれにこの刺口部を欠くこともあります。

特徴



刺し口

治療・予防

治療は、テトラサイクリン系抗生物質投与。重症化すると死亡することもあります。

ワクチンがなく、免疫学的に予防することはできませんが、地域におけるつつが虫の発生時期を知り、山林、河川敷などの草地、耕地などに立ち入る際や立ち入った後には・・・

○素肌の露出を避けるため、長袖、長ズボン、長靴、手袋などを着用する。

○できれば皮膚の露出部にダニ忌避剤を塗布する。

○山林に立ち入った後は入浴し、体に付着しているおそれのあるツツガムシ幼虫を洗い落とす。皮膚に付着したダニは潰さないこと。髪の毛の中、犬の毛の中もチェック。また、皮膚に刺口（トゲを刺した感じの箇所）がないかどうか確認した上で必ず着替える。脱いだ衣類を放置すると、衣類に付着したツツガムシにより家族が感染するおそれがあるのですみやかに洗濯します。